

「念ずれば花ひらく」

「念ずれば花ひらく」の言葉は、仏教詩人の坂村真民（さかむらしんみん、1909年～2006年）さんの詩、「念ずれば花ひらく くるしいとき 母がいつも口にしていた このことばを わたしもいつのころからか となえるようになった そうしてそのたび わたしの花がふしぎと ひろつひとつ ひらいていった」の題です。わたしが30代の頃、荒れた学校を建て直そうと努力しても、思い通りに行かないで苦労しているときに会った言葉です。先生方と協力して、校舎内外のゴミ拾いや昇降口の掃除、朝の校門でのあいさつ運動から始めました。半年続けたら何人かの生徒が手伝ってくれるようになり、少しずつではありますが良い方向に向かい始めました。そんな矢先、わたしの対応のまずさで、ある生徒（A君）との信頼関係が壊れてしまいました。信頼関係を取り戻そうと努力しましたが、卒業の日まで私は受け入れてもらえませんでした。信頼関係のない教育は無力です。教員に向いていないのではないかと止めようとも思いました。A君が笑顔であいさつしてくれたら何もいらないとさえ思いました。卒業式終了後の保護者会主催の謝恩会が開催され、A君のお母さんも出席してくれました。会の中程で、A君のお母さんが私の所に来て「先生、Aは家に帰ってくるといつも先生の話をしてきていたのですよ。ぶっきらぼうのAですが、木村先生に感謝していたのです。」と話してくれたのです。A君は私の気持ちを分かっていたのかと思うと嬉しさがこみ上げ、思わず目頭が熱くなりました。学校全体が良くなるまで、それから2年かかりましたが、「念ずれば花ひらく」の言葉が私を支えてくれたのだと今でも感謝しています。

第7期『耕人塾』も12回目になりました。今年度も「プロジェクトK」や「プロジェクトI」を中心に、充実した研修や活動を展開することができました。実践活動の「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」も5回実施し、石巻市環境保全リーダーの会、NPO法人いしのまき環境ネット、宮城県産業廃棄物協会、石巻青年会議所等との連携や市民参加など、輪が広がりつつあります。東日本大震災から7年8ヶ月が過ぎ、護岸工事や道路の整備などが着々と進み、2020年の復興完結を目指しています。しかし、「形」の復興だけでなく「心」の復興も大事です。『耕人塾』の趣旨の一つは、大震災最大の被災地である石巻地域をさらに住みよいまちにしていくことです。今後も「人間力」の育成と「あいさつ・清掃・ゴミ拾い」の輪を広げ、「世界に誇れる石巻地域」にするために「念ずれば花ひらく」の言葉を支えに、皆さんと共に実践活動を継続していきたいと思っています。



「二度とないじんせいだから」坂村真民さんの詩をもう一つ紹介します

「二度とない人生だから 一輪の花にも 無限の愛をそそいでゆこう 一羽の鳥の声にも 無心の耳を かたむけてゆこう 二度とない人生だから 一匹のおおろぎでも ふみころさないように こころしてゆこう どんなにか よろこぶだろう 二度とない人生だから 一ぺんでも多く 便りをしよう 返事は必ず 書くことにしよう 二度とない人生だから まず一番身近な者たちに できるだけのことをしよう 貧しいけれど こころ豊かに接してゆこう 二度とない人生だから つゆくさのつゆにも めぐりあいのふしぎを思い 足をとどめてみつめてゆこう 二度とない人生だから のぼる日しづむ日 まるい月かけてゆく月 四季それぞれの星々の光にふれて わがこころをあらいきよめてゆこう 二度とない人生だから 戦争のない世の 実現に努力し そういう詩を 一遍でも多く 作ってゆこう わたしが死んだら あとをついでくれる 若い人たちのために この大願を 書き続けてゆこう」